

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

〔取り組みの事実〕

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。（実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入）

〔取り組んでいきたい項目〕

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

〔取り組んでいきたい内容〕

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

〔特に力を入れている点・アピールしたい点〕（アウトカム項目の後にある欄です）

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目（No.1からNo.87）とサービスの成果（アウトカム）の項目（No.88からNo.100）の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム浄心の杜
（ユニット名）	2ユニット
所在地 （県・市町村名）	名古屋市西区上名古屋3丁目13番3号
記入者名 （管理者）	荒川 優士
記入日	平成 20 年 3 月 28 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(☐ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	1.尊厳・奉仕・思いやりの心を大切にする。2.笑顔あふれる空間を創造する。3.お客様の生活の安心・満足・充実を図る。4.仕事の安心・満足・充実を図る。5.地域間、事業所間の充実を図る。6.経営の安定・拡大を図る。玄関に貼りだし来客にも分かるようにしている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	各階、事務所に理念を貼っており日々意識をもてるようにしている。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	○	家族や地域の人々に社是、理念を伝え理解してもらえるようにしていく。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	○	近所の方など事業所に立ち寄ることが余りなく、いつでも気軽に立ち寄ってもらえるような雰囲気作りに努める。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	児童も含め幅広く地域の方と交流がもてるように声をかけていく。地域行事への参加も積極的に参加していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	電話等で介護で困っている事などあれば、相談にのっている。介護予防教室の開催等は行っていない。	○	専門学校生、実習生の受け入れ、今後行っていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義や目的を職員や家族に伝えている。また全スタッフと評価結果の改善すべき点において対策を話しあう。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービスの実際、報告や意見交換など行い、今後のサービス向上に努めている。	○	定期的な運営推進会議は行えていないため、今後は定期的に開催していき、評価結果を含め家族、地域の方に報告し、意見をもらい改善していく。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当と直接交流する機会はほとんどない。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	実施に向けて検討中	○	勉強会を通して職員の理解を深めるようにする。また、ご家族に対しても情報提供していく。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての会議、勉強会は行っていないが、カンファレンスを通し日常的に気づいた事や対応など意見交換している。また、虐待についての外部からのアンケートなどに協力している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は時間をかけ説明を行い同意を得ている。また、疑問や不安などは随時受け付け、気軽に連絡相談していただけるように伝えている。		契約書、規程などはわかりやすく分け、事前にお渡しするなどゆっくり内容を見る時間を作る。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々利用者の声に耳を傾け、小さな事でも改善すべき点などは申し送りなどを通し全職員で共有し、今後のケアにつなげている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の状態等は毎月、手紙などで知らせている。訪問時には日常や行事の写真を一緒に見たりする。金銭管理は出納帳に記入し、管理者、施設長、経理が確認し、家族に毎月収支報告をしている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	随時、不満や要望など受け付けており、いつでも気軽に問い合わせいただけるよう声をかけている。また改善すべき点など全職員、運営会議で話し合い意見を反映させている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見や提案も含め、毎月の会議で機会をつくっており、運営会議にでも報告している。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の生活や病院受診、誕生日会などに合わせて勤務調整しており柔軟な対応ができるようにしているが、人員確保には制限があり必ず確保することは難しい。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	環境を変える事は利用者にとって影響がでることもあり、異動は必要最小限にとどめている。引継ぎを含め話し合いを行っている。また、異動の場合でも気軽に会えるような体制作りをしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現在、事業所内では、勉強会行っておらず。その他事業所外での研修案内は伝達し、自主的に参加している。自由参加の研修に関しては報告書の作成はしていない。	○	月1回の勉強会を早急におこない、施設外の研修に積極的に参加おこなう。
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者との交流の機会はほとんどない。実施に向けて検討。		
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	悩みや思いなどお互いに声をかけ合い共有できるようにコミュニケーションをとっている。ストレスの要因を考え、業務の見直しも含める。	○	職員の疲労やストレスなどの要因について気を配り、話す機会や気分転換を図れる機会を作る。また、業務の見直しも随時行っていき環境作りにとりくみたい。
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	毎月经営会議を行い、日々の連絡、職員の勤務状況、実績、努力などを報告している。また、資格取得に向けた支援がある。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前面談では必ず本人と会いゆっくりと話す事をし、これまでの生活状態や希望を聴き、本人の求めていることや不安を受け止めている。		
24 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の苦労や求めていることをゆっくり聴くようにし、事業所としてはどのような対応ができるか事前に話し合っており、今後の介護計画につなげる。	○	契約書、規程などはわかりやすくし、事前にお渡しするなどゆっくり内容を見る時間を作る。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、家族の思い、状況等を確認し、改善に向けた支援の提案をしている。内容によっては他のサービス利用の情報も提供する。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	まず本人や家族に見学に来てもらい実際に雰囲気を見ていただく。これまでの生活歴、要望を大切にする。	○	わかりやすい一日の流れのしおりを作り、本人の不安や要望を受け止めていき相談に応じていきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員と一緒に部屋でゆっくり話す時間を作り、本人の思いや苦しみ、不安を知る事やお互いが相談しやすい関係を作り、に留意している。食事などで、今までの経験を職員に教えていただく事がある。	○	職員とマンツーマンで外出する機会を増やし、深い関わりがもてるように努め、話しやすい環境を作る。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族からの相談はもちろん、日常の変化を伝え共有していくように努め、協力関係ができるようにしていく。行事などの参加を呼びかけ、本人との共有時間の提供をおこなう。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	これまでの関係や両者の思いを把握するようしており、関係によっては訪問時に職員も一緒につき、両者の思いが結びつくような会話や雰囲気作りに努めている。	○	これまでの関係を把握し、今後も本人、家族の思いを理解すると共に、より良い関係が築いていけるように努めている。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔から通っている床屋を利用したりしている。こちらから一緒に会いたい人や場所に出向くような取り組みはしていない。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係がうまくいくように、会話の中で職員も一緒に入りうまくコミュニケーションがとれるよう支援している。日常生活の中で、一人一人の力や個性をうまく生かす配慮に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	特にこちらからは継続的な関わりを持つよう働きかけてはいない。しかし、連絡があった時は必要に応じて相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	事前に思いや暮らし方の希望をうかがうことはもちろん、毎日の日々のかかわりの中でも声をかけ、把握に努めている。意思疎通が困難な方でも、表情やしぐさを観察し把握、理解に努める。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常の会話の中で少しずつ聞き出し把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者の1日の生活リズム、心身状態を含め、できる事の把握、能力の引き出しに努めている。日々の生活活動への自立支援、もしくは一緒に行うように心掛けている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族の思いや意見を聞き、反映させるようには努めている。食事や入浴など時間が決まっていることに関しての要望に応えるのは難しいが、要望をできるかぎり近いものとし、全職員で意見交換やモニタリング、カンファレンス等行っている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	モニタリング、効果などを評価すると共に、状態等変化した場合はカンファレンス以外でも意見交換をし、新たなニーズに即した対応をするよう努めている。	○	事業所外の関係者の意見も聞いていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	バイタル、食事・水分量、排泄等身体的状況及び日々の様子や言葉などを個別記録に記入している。日々の観察記録の中にモニタリングをしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制加算の指定がある。緊急時の通院や送迎は行っているが、協力病院以外の受診には家族の協力を必要としており柔軟な対応には至っていない。	○	個々の満足度を高めるよう支援していきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアの受け入れを積極的に行っている。	○	警察や消防署、教育機関等の方と意見交換、交流する機会を設けていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の意向であり、家族も納得されているならば、必要に応じて相談にのり希望されるサービスの提案、事業所を探す支援をしている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	実施に向けて検討中。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力病院のご案内をすると共に、本人や家族が他の病院を希望されていれば希望に応じて対応している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症に対しての相談、診断や治療は往診の精神科医、協力病院や主治医にて受けている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	医療連携体制を設備しており、24時間体制で健康管理や状態変化等の報告、連絡、相談をに対応している。医療に対する知識や質問なども気軽に相談している。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には、本人の情報を医療機関に提供すると共に、協力病院からも情報提供書をいただくなど連携をとっている。定期的に本人の様子を見に行き、戻りやすい環境作りに努めている。また、家族とも情報交換に努めている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化対応指針の同意を家族からいただいている。しかし早い段階からの具体的内容、話し合いには至っていない。終末期の入居者は、家族、施設、主治医、看護師の話し合いをおこなっている。	○	早期の段階から話し合いの機会を作っていく。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	急変した場合は、すぐに対応していただけるよう事前に医療機関との連携をとっている。看護師職員はいない為、継続して医療行為を必要とするときは継続的な訪問看護を依頼している。ターミナルについては、医療機関と話をしており対象者が、いれば、家族を含めた話し合いをおこなっている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	事前に本人、家族や関わる関係者と話し合いや情報提供などしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	○	プライバシー、尊厳について常日頃、具体的に確認し合うことを大切にする。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	○	職員側の都合でサービスの質がおちないように環境を整えたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を使用し、一人ひとりの排泄パターンや失禁状況を把握することに努め、トイレの声かけ、誘導を行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は基本的に週に2回以上となっている。体調やバイタルによって入浴が難しい時でも清拭や足浴は心がけている。足浴は随時必要に応じて行っている。	○	
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中は居間で皆とすごし活動を促し、生活リズムを整えるよう努めている。夜間気になることがあり眠れない方がいたら、不安などを傾聴し安心していただけるように心かけている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの力を発揮してもらえよう、日々の生活活動の中で楽しみや役割作りなどを見つけていくようにし、また、興味がもてるような声かけを心掛けている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には認知症の状態によって入居時にお金を所有することにお断りしている。	○	お金の事が原因で精神的に不安になる方がいたとしたら家族を交え話し合い対応したい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気や本人の希望に応じて、日常的に散歩や買い物、喫茶店に出かけている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	希望があればできるだけ支援しているが、自宅に帰りたいなど家族の協力が必要な事に関してはすぐには対応できない事もある。定期的に家族と外出されたり、喫茶に行ったりはしている。	○	希望があったときに実現するための方策を職員、家族と共に話し合いしたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に直接電話をされる入所者のいるが、電話や手紙なども希望があれば支援するが、こちらからもちかけることはしていない。年賀状は声をかけ、書いていただいている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも気軽に訪問していただいている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠以外の身体拘束は行っていない。職員も理解している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室の施錠は、おこなっていない。	○	玄関の施錠開放に関しては、施設全体で、話し合い検討していきたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は居間にて皆ですごしていただいているが、状態や意志によって部屋にて過ごされる方には、定期的に様子を見に行ったりしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	取り除くような事はなく、利用者の状況変化によっては注意を促していくなどケースに応じた対応をしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	誤嚥のリスクの高い利用者や転倒の危険性が高い利用者などは介護計画などで予防努めており、一人ひとりの状態、事故の可能性についてカンファレンスなどで話しあっている。万が一事故が発生した場合には事故報告書を作成し、事故原因、今後の予防対策について検討し家族への説明と報告を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時対応について、マニュアルなどはあるが、実際救急手当や蘇生術の実施には至っていない(過去一回はある)	○	勉強会(実技含め)を実施し、消防署の協力を得て、救急手当や蘇生術の研修を実施し、全ての職員が対応できるように努めたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を経て避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方などの訓練を行う。	○	施設の、1階は、他の施設のため、今後、合同での避難訓練などを検討している。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて、家族等に説明と対応策を伝えている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	一人ひとりの日々の変化や異変を気にかけてどんな些細な事でも送りなどで情報を共有するようにし、家族や主治医にも報告している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの処方薬目的内容、副作用を個人カルテに入れており、すぐに確認できるようにし状態変化など見られたときはすぐに協力病院に連絡をしているが、薬の内容、副作用すべてを全員が把握してるとは言えない。誤薬を防ぐ為、服用時の確認は徹底している。	○	全職員が薬の内容(目的、用法、用量、副作用)を把握できるよう、分かりやすいシートを作成したり、勉強会の内容に取り入れていきたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分摂取を促したり、一日2回集団体操、個別運動を行い、天気の良い日は散歩に行ったりと適度に体を動かすようにしている。定期下剤を使用してる方もいる。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨きの声かけ、見守り、介助を行い夜は義歯洗浄剤を使用している。その他週一回の口腔ケアサービスを利用している。口腔状態や痛み等を確認していく。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を毎日チェック表に記録し、職員が情報を共有している。また往診時に定期的に血液検査を行っている。バランスの良い栄養摂取ができるようメニューは魚の日・肉の日・・と配慮している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防の為、ディスポグロブ、消毒、などを使用している。	○	随時対応できるように感染症に対する予防と早期発見、早期対応に関する知識、技術を身につけたい
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所に入る時は必ず手洗い消毒をし、調理用具等、まな板、ふきん等消毒、漂白を徹底している。食器乾燥機も使用している。食材の残りや鮮度、状態も随時確認している。食事の検食をおこない、毎食の食事を少量保管している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	現在、一階のエレベーターホールに入居者様の毎月の新聞が、掲載している。	○	入り口に花などを置き、親しみやすい雰囲気に工夫したい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	必要以上の飾りつけは行っておらず、落ち着いた空間の中で一緒にテレビやビデオを観たり、世間話をし笑い合い・・そんな雰囲気作りに努めている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にソファがあり、気の合った入居者様どうし、過ごす場所がある。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベット、カーテンなど、本人の好みの物や自宅にあった仏壇など馴染みの物などは自由に持ってきていただいている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがなくよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	冷暖房に頼り過ぎず、外気との温度差にも気をつけ調整をこまめにおこなっている。また冬場に加湿器などを設置している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりなどを活用し、できるだけ自立した生活を送っていたけるよう支援している。物干し竿の高さなど利用者が作業しやすいよう配慮している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	過剰な援助はせず、見守りの中、本人のペースに合わせて自立支援を促す。カンファレンスを定期的に行い状態変化や対応などを話し合っている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の外周りは、2階3階のみで、スペースがなく、ベランダは、入居者が、ベランダに出るよう出来ていないため、活用が、出来にくい状態にある。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
		○	③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

浄心の杜では利用者一人ひとりの思いを大切にし笑い合う、ゆったりと過ごすなど、そんな雰囲気を提供しつつ、食事、掃除、など本人が、出来る部分を提供しながら生活の場として過ごして頂いています。

また、個々のペースに合わせた日常生活の支援を努めると共に、本人の思いや希望を受け止めていけるよう努めています。

職員側がおしつけるようなレクリエーションは行わず、季節を感じたりなじみのある行事などを行っていきたいと思っております。

季節に合わせた旬の食事や健康増進の為に雑穀米を取り入れたり、ADL維持向上に向けて毎日集団体操、個別運動を行っております。”(行事)

行事では、3月はバスを借りて花見見物、8月は町内の盆踊りなど、季節の行事を行います。また、誕生日会など催し物を取り入れ、一年を通し楽しく生活を過ごして、一人一人の喜びを共に分かち合い支えあえる人間関係作りを支援しています。

健康の維持を目的として、散歩、集団、個別の体操を取り入れ、転倒などの予防に努めています。”